

農機・建産機向けパイプ加工のコーケン工業

KOMA工場の稼働順調

切削部品の加工能力向上

最終製品部材へ新規参入検討

農業機械や建産機向けのパイプ部品加工を手掛けるコーケン工業（本社・静岡県磐田市、社長・大石剛氏）は、今年5月に立ち上げた第三工場（KOMA工場）が順調に稼働している。切削部品加工の専門工場として同加工能力を向上。多品種小ロット対応を強化するとともに、今後は最終製品となる部材の開発、新規参入も視野に入れていく。



大石社長

コーケン工業は1971年創業。農業機械、建産機、ディーゼルエ

ンジン向けなどで普通鋼やステンレス等のパイプ部品加工を手掛ける。年間売上高は約50億円（2024年9月期実績）。部品加工、接合、表面処理、検査、出荷までほぼ社内一貫生産体制で多品種小ロ

ット、短納期ニーズに対応できるのが強み。取り扱いアイテム数は6500点以上に及び、月間1〜10本のロットオーダーが全体の約6割を占める。

KOMA工場は、本社工場（磐田市飛平松）と第二工場（磐田市南平松）近隣の同市駒場に第二工場で行っていた切削部品加工を移設する形で設立した。従業員は30人体制（工場現場26人、事務4人）。第二工場から移設した自動切削機13台、手動切断機31台の計44台が稼働。移設に当たり4台をリプレースし加工能力向上を図った。

同社の主力納入先である農機や建機の最終ユ

ーザーはほぼ6〜7割が米国など海外向け。海外では人口増加に伴い、一般家庭向けの小型建機や農機具の底堅い需要が続くとみられている。今後の需要増に対応するため既存取引分野の切削加工対応を高める。将来的には、バルブやマニホールド（多岐管）部材など切削加工単体で商品となる部品の開発、新規参入にも注力していく。同社は今期（25年9月期）初めて中期経営計画「コーケン・ビジョン2030」を策定。30年までに年間売上高80億円を目指す。KOMA工場の立ち上げで売り上げ、収益拡大を進める。また、設備移設によりスペースの空いた第二工場と本社工場では加工工程、設備レイアウトを今中計期

間中に抜本的に見直し、多品種小ロット加工をさらに強化していく方針だ。



順調に稼働開始したKOMA（第三）工場の外観④と内観

